

令和3年度 事業報告

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

(総括的概要)

令和3年度も新型コロナウイルスの影響により様々な行事などが延期・中止に追い込まれた。理事会・代表者会議なども中止せざるを得ないことが続いた。このような制約の中、現場の支援員の先生方を中心に感染対策が行われたこと、また保護者の協力もあり学童保育で大きなクラスターなどが発生しなかったことで、安定した学童保育ができたことは大きな成果だと考えられる。

今年度は支援員対象の「働き方調査」と保護者対象の「学童保育の満足度調査」を行い、支援員の労働環境の実態及び保護者の学童保育に対する高い満足度を知ることができた。この結果に慢心することなく、子どもたちの安全・安心が担保できるような保育環境づくりを推進していきたい。

近年筑紫野市の人口が増加傾向にあり、学童利用人数も増加している。現在学童の定員を超過している所もあり、早急に市教育委員会・学校と協力してできる限り待機児童を作らないように、今後も体制を構築していきたい。

(重点課題と具体的成果)

1、支出見直しを図り、安定したクラブ運営

大きな支出などはないが、今後の5年10年と永続的に運営を考えていく中で、子どもの数が減少していくため、収入面の減少が予想される。今から将来を見通した安定的な運営ができるように経営戦略の見直しを図っていきたい。このような中、市教育委員会から運営に係る補助金単価を60円引き上げていただいた。

2、職員の処遇改善・安全な放課後児童クラブの環境設備

国の放課後児童支援員等処遇改善臨時特例事業を受けて、令和4年2月から職員給与が月額で3%程度引き上げられ、職員の処遇改善が大きく前進した。

定員超過の学童保育では市教育委員会・学校と協議し、空き教室などを活用した3密回避の対策が行われ、通年・季節において快適な教室を借用することができた。

3、行政・学校・地域との連携コミュニケーションのさらなる強化

行政・学校とは連携がとれているが、地域とのコミュニケーションは新型コロナウイルスの影響により行事等が停止となり、残念ながら図られていない。